

の外道は執見あさし。仏後の外道仏教をきゝみて自宗の非をしり、巧の心出現して仏教を盗取、自宗に入て邪見もつともふかし。附仏教・学仏法成等これなり。外典も又々かくのごとし。漢土に仏法いまだわたらざつし時の儒家・道家は、いういうとして嬰兒のごとくはかなかりしが、後漢已後に釈教わたりて対論の後、釈教やうやく流布する程に、釈教の僧侶破戒のゆへに、或還俗して家にかへり、或は俗に心をあはせ、儒道の内に釈教を盗入たり。止観第五云、(「今の世に多く悪魔の比丘有りて、戒を退き家に還り、駢策を懼畏して更に道士に越濟す。復、名利を邀めて莊老を誇談し、仏法の義を以て偷みて邪典に安き、高きを押し下きに就け、尊きを推きて卑しきに入れ、概して平等ならしむ」云云。弘云「比丘の身と作りて仏法を破滅す。若しは戒を退き家に還るは衛の元嵩等が如し、即ち在家の身を以て仏法を破壊す。○此の人正教を偷竊して邪典に助添す。○押高等とは○道士の心を以て二教の概と為し、邪正をして等しからしむ。義是の理無し。曾て仏法に入りて正を偷みて邪を助け、八万十二の高きを押して五千二篇の下きに就け、用て彼の典の邪鄙の教を積するを摧尊入卑と名く」等云云。此の積を見るべし。次上の心なり。仏教又かくのごとし。

後漢の永平に漢土に仏法わたりて、邪典やぶれて内典立。内典に南三北七の異執をこりて蘭菊なりしかども、陳・隋の智者大師にうちやぶられて、仏法二び群類をすくう。其後法相宗・真言宗天竺よりわたり、華嚴宗又出来せり。此等の宗々の中に法相宗は一向天台宗に敵を成宗、法門水火なり。しかれども玄奘三蔵・慈恩大師、委細に天台の御積を見ける程に、自宗の邪見ひるがへるかのゆへに、自宗をばす